

各分野を横断的に関連させ 地域環境の改善を目指す

三重県四日市市 一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会

一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会（以下、研究会）は、四日市市および北勢地域において、里山が荒廃し、生態系や生物多様性が損なわれる状況を社会的な問題と捉え、地域の産官学民と協働して地域環境保全活動ならびに地域循環型社会づくり事業を実践している。

活動は多岐に渡るが以下の(1)～(4)の四つの柱を中心に展開している。(1)環境保全活動・地域循環型社会づくり「伊勢竹鶏物語」3Rプロジェクト。(2)ESD（持続可能な開発教育）プログラムによる未来に向けた人材づくり。(3)生態系に即した農業のあり方を学ぶ農業塾の開催。(4)SDGs（持続可能な開発目標）の普及・啓発・推進。

これら、四つの柱を相互に関連させながら、持続可能な未来社会に向けて取り組みを続けている。

環境保全活動・地域循環型社会づくり「伊勢竹鶏物語」3Rプロジェクト

Part 1（2008年～2011年）では、繁茂しすぎて里山を荒廃させている竹と、廃棄され食品ロスとなるパンや野菜を活用した養鶏飼料をつくり3R（reduce, reuse, recycle）を推進するため、研究会と企業関係者、地域団体とのステークホルダーで事業を展開した。その結果、①鶏の飼料の自給率の向上②公害となる鶏

糞による鶏舎からの悪臭の除去③高栄養、高品質、環境に配慮したブランド卵を生産し、旅館や洋菓子店で使用、さらには環境保全からできた菓子として大阪の百貨店で販売、といった飼料開発から消費者にわたるまでの地域循環型社会づくりのモデル事業を開発した。

この実績については、2010年10月に開催された生物多様性条約（CBD）第10回締約国会議（COP10）の外国人向けサイドイベントにおいて発表した。また、同年環境省「環境白書」にも掲載された。

現在進行中のPart 2では、里山保全活動を実施している。

生物多様性国家戦略においては日本の生物多様性の四つの危機の第二として、里山



物多様性」など、人間と自然のつながりをテーマとし、地域の現状を知り問題解決に向けて自ら考え行動する人材の育成を行っている。

今後さらに、ESDの概念・目標を重んじ、SDGsに向け、足元の地域の課題改善から地域の発展につなげるために真摯に取り組んでいきたい。

農業塾で現状の課題と改善に向けて

昨年は、一般社会人を対象に、生態系に即した農業理論と技術を学ぶ農業塾、地域の生活支援者を対象とした農福連携事業を実施した。また、四日市大学環境情報学部学生対象の農業に親しむ機会も重要として準備・維持・運営をした。

暮らしに直結する「食」についての現状は「耕作放棄地」「高齢化問題」「野生生物による被害」「気候変動による土壌の劣化」など問題が山積している。「食」を支える農業の危機的な状態を改善するために、農産物の栄養価（ビタミン・抗酸化力など）や安全安心な肥料の化学的デザインを用いて、高度化した農法を学ぶ人々を育成していく。

SDGsの普及・啓発・推進

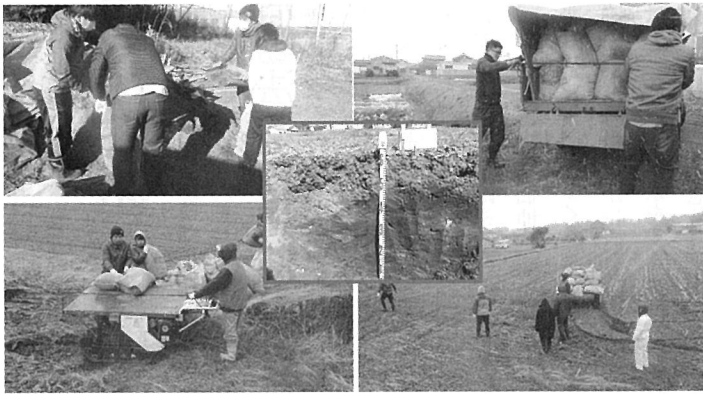
地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind) ことを誓うSDGsは、幸福な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成されているが、SDGsの普及はなかなか進んでいないのが現状である。

研究会では団体、企業、大学などへ講演の機会を得て積極的に啓発を行っている。

今後さらに発信先を拡大させながら、SDGsの啓発・推進につなげたい。

研究会自体も四つの柱である(1)～(4)の事業を遂行するにあたり、SDGsの17の目標の中の3、4、7、12、13、15、17を示しながら、社会・経済・環境を相互に関連させ統合的に取り組み、地域社会の規範となるべく、普及・啓発を前進させていきたい。

(一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会副会長兼事務局長 矢口芳枝)



実証実験：竹粉を投入することで水田土壤に含まれる栄養素などの変化を見る



ESD教育：学校教育・教員研修・社会教育・体験型イベント